

日本におけるコンタクト・インプロヴィゼーション普及の現状とその可能性

# CIラウンドテーブル #1

The 1<sup>st</sup> Contact Improvisation Round Table, JAPAN

第1回テーマ

## CI経験が可能とする個人の能力 (コンピテンシー) の発展

コンタクト・インプロヴィゼーション (CI) が我が国に紹介されてから20年以上が経ちます。欧米のCI実践は近年、社会運動的な様相を帯び、コンセント文化推進の一翼を担う活動も増加してきています。日本においては、複数のCI団体やCI指導者が活動を続け、多様な文脈でこの形式の実践が続けられています。CIの民主主義的特性を重視し、研究プロジェクト (JSPS課題番号23K00190) の一環として、ラウンドテーブルという形式で、国内のCI団体代表者とCI指導者の話を聞く機会をもつことといたしました。どのような現場でどのような実践が進められているのか、それぞれの成果や課題を共有することで、CIの普及発展の一助となる機会となることを期待しています。またゲスト話者として、国際的なCI指導者として定評のあるカースティ・シムソン氏 (英国) に、大学でのCI指導の事例についてお話し頂きます。

### プログラム Programs

司会による経緯説明 Opening  
日本のCI団体代表者/指導者によるプレゼンテーション  
Presentations by 6 Guest Speakers of Japanese Contact Improvisors  
<小休憩 Pause>  
カースティ・シムソン氏によるプレゼンテーション  
Presentation by Kirsty Simson  
質疑応答/ディスカッション Verbal Session  
CI教材素材の紹介/ジャム Movement Session/CI Jam  
閉会の辞 Closing

### 話者 Speakers

カースティ・シムソン Kirstie SIMSON  
入野由利絵 Yurie IRINO  
岩淵多喜子 Takiko IWABUCHI  
甲村三奈代 Minayo KOMURA  
高橋弘子 Hiroko TAKAHASHI  
手代木花野 Hanano TESHIROGI  
ヤスキチ YASUKICHI  
(順不同、敬称略)

司会/コーディネーター Moderator/Coordinator  
福本まあや Maaya FUKUMOTO  
通訳 Translator  
国枝昌人 Masato KUNIEDA

2025年4月26日 (土)

14時~16時30分 受付13時50分~

April 26<sup>th</sup>, 2025 14:00-16:30 open 13:50-

参加費 無料 (要事前申込 24日マテ)

Fee Free (Advance registration required, by 24<sup>th</sup>)

お茶の水女子大学

体育館1Fダンス室

(東京都文京区大塚2-1-1 /丸の内線茗荷谷駅より徒歩10分)

Dance Studio at Ochanomizu University

Access : <https://www.ocha.ac.jp/access/index.html>

お申込みはコチラから <https://forms.gle/1Lg8kAzh2cVProDN9>



Registration QR

# CI ラウンドテーブル #1 The 1<sup>st</sup> Contact Improvisation Round Table, JAPAN

2025年4月26日（土）お茶の水女子大学体育館 1Fダンス室

## 【話者略歴／Guest Speaker Profiles】



photo©Nina Durdevic

### カースティ・シムソン Kirstie SIMSON

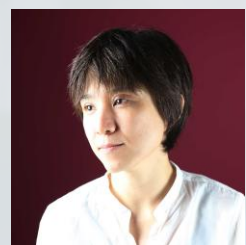
彼女は過去45年間、ダンス・インプロヴィゼーションに熱心に取り組み続け、インプロヴィゼーションという共通の関心を持つスティーブ・パクストン、ナンシー・スターク・スミス、シモーン・フォルティ、マイケル・シューマッハなどのダンサーや、レ・クアン・ニンといった音楽家たちと数多くのコラボレーションを行う。London Time Out紙に「ダンス界における唯一無二の存在」として Dance and Performance Award を受賞しており、New York Times紙のジェニファー・ダニング氏は彼女のダンスについて「カースティ・シムソンの純粋な自然の力から発現されたかのような優美で感覚に訴えかけるダンスに対する英国での賞賛は正当な評価だ」と述べている。彼女はまたイリノイ州立大学ダンス学部の助教授としてインプロヴィゼーションを13年間教え、2020年8月に彼女の本拠地であるウェールズに戻り、現在に至るまで独立したアーティストとして世界を股にかけて彼女のワークを探求しシェアし続けている。<https://www.kirstiesimson.com/>



photo©EricAllenPhoto

### 入野由利絵 Yurie IRINO

東京をベースにするCI（コンタクトインプロヴィゼーション）ダンサー。早稲田大学在学中の2010年に林貞之氏の授業でCIに出会う。それまで合気道の経験はあったもののダンスの経験はなかったが、1年後にはCIの生まれた国であるアメリカへCI修行をしに行くまでのめり込む。その後も国内外でCIの研鑽を積みながら、大学やダンススタジオでCIのクラスのアシスタントを務めるようになり、2016年からは自身でも定期的にCIを教えている。東京だけでなく、静岡、京都などでもワークショップを行う他、コンタクトフェスティバル・クアラルンプール（マレーシア）や成都CIワークショップ（中国）といった海外のCIフェスティバルなどにも招聘されている。



photo©Shoko Kashima

### 岩淵多喜子 Takiko IWABUCHI (Dance Theatre LUDENS主宰、日本女子体育大学ダンス学科准教授)

東京学芸大学、同大学院修了。ロンドンラバンセンターにてプロフェッショナルダンススタディーズディプロマ取得。エルヴェ・ロブ、テッド・ストッファー等の作品にダンサーとして参加後、1999年帰国。Dance Theatre LUDENS設立。以後、LUDENSの全作品の演出・構成・振付を行う。代表作に「Be」Distance」「Against Newton」など。ADF、ImpulsTanzなど国内外の主要なフェスティバルより招聘を受け作品を上演、高い評価を得る。カンパニーの活動の他、海外共同作品制作、人材育成プログラムの実施など、様々な形でコンテンポラリーダンスを軸に活動している。「Be」にて【横浜市文化振興財団賞】、【在日フランス大使館賞】。「Distance」にて【舞踊批評家協会新人賞】受賞。ACCスカラシップ、Dance WEBスカラシップ、2000-06年 セゾン文化財団より年間助成を受ける。



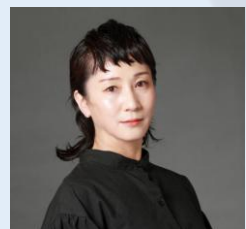
### 甲村三奈代 Minayo KOMURA (CIあいち代表)

愛知県名古屋市生まれ。20代30代は会社員をしながら中部地方を中心にダンス活動をしていた。2014年島田真帆とともにコンタクト・インプロヴィゼーションを軸に活動をする団体「CIあいち」を結成。CIを深め広めるため、誰でもCIに参加できる場として「ラボ&ジャム」を始める。国内外の講師のCIワークショップやCI合宿を開催。今後も全世代、多様な人々に向けてCIを発信していきたいと考えている。



### 高橋弘子 Hiroko TAKAHASHI (C.I.N.N.代表)

2003年SPIRAL（現C.I.N.N.）結成時より団体代表者として、CIのワークショップやジャム等を企画・制作・運営を担当。2007年に東京コンタクト・インプロ・フェスティバルを開始、現在まで続けている。1997年に竹屋啓子ダンスカンパニー（CDC）団員として渡仏の際に出会い、以降、N.S.スミス、N.マーティン、R.チャン他のもとで集中的にCIの研修と実践を重ねる。2004年には、そのルーツである合気道を学び始める。現在、C.I.N.N.の企画に加えて、Malaysia, Thai, 中国四川からCIフェス/WSの招聘を受け指導。国内では大学やダンス学校等でCIを紹介し、近年は様々なボディワークや合気道と組み合わせたCIの指導を展開。2023年度～現在：神田外語大学非常勤講師(合気道)。合気道四段、居合道二段。<https://contactimprov-nn.com/about/staff/>



### 手代木花野 Hanano TESHIROGI

日本女子体育大学卒業。コンタクトインプロヴィゼーション(CI)のテクニックを基盤としたダンスユニット CI部副部長。'08~'10年CIグループClcoとして各地でパフォーマンス、WS、国際フェスティバルの開催等の活動を行う。また、ダンサー、俳優として様々な振付家、演出家の作品に参加。近年では舞台「千と千尋の神隠し」に出演し、英国オリビエ賞にノミネートされる。都立総合芸術高校 特別専門講師。

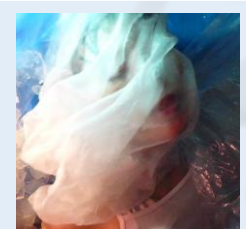


photo ©成田護

### ヤスキチ YASUKICHI (CI dancer (水と陸)、contact improviser、人)

日本のダンスの学院を卒業後、仕事として10年程「踊り子」を行いつつ、コンテンポラリーダンスの作品に共同作業として参加や作品を発表。2000年頃から東京でcontact improvisation(CI)を学びながらCI 定期ジャムのリード、2002年からCIワークショップのリードを始める。定期不定期で野外屋内のCIジャムを開催。即興パフォーマンスや即興sessionのliveや音楽家との共演も多数。子供や高齢者のクラスも展開している。2014年よりマレーシア、タイ、中国、インドなどアジアを中心にCI講師として招聘され指導を担当。水の中18年位踊っています。<https://yasukici.wixsite.com/contactimprov-tokyo/自己紹介-profile>

本企画は科研費受給研究「シティズンシップ教育との交点から行うCI学習指導プログラムの整理構築」（2023-2025年度 基盤C、23K00190、研究代表者福本まあや）の一環として開催いたします。同研究は、CIというダンスの即興形式が、欧州評議会が2018年に示した民主的な文化への能力枠組み（RFCDC）に通じる能力の育成を可能とするということをCI実践者らの言説と実地調査を通して示し、中学から大学までの段階的な学習指導プログラムの整理構築を行うことを目的として進めています。